

論 文 要 旨

Efficacy of hormonal and mental treatments with MMPI in FtM individuals :
Cross-sectional and longitudinal studies
(MMPI を用いた FtM に対するホルモン療法と精神療法の有効性に対する検討:
横断研究と縦断研究)

関西医科大学精神神経科学講座
(指導：木下 利彦教授)

織 田 裕 行

【はじめに】

性別違和（Gender Dysphoria（以下、GD））は「生物学的性と性の自己意識あるいは自己認知が一致しない状態」とされてきた。International Statistical Classification of Diseases and Related Health Problems（ICD）-10 や Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders（DSM）-5にも診断基準が定義されており国際的にも広く知られている。しかし、日本におけるGDを取り巻く環境は特殊な状況にある。male-to-femaleに対する性別適合手術に有罪判決が下された1969年から、日本精神神経学会が示す「性同一性障害に関する診断と治療のガイドライン」に沿って性別適合手術が再開された1998年までの約30年間、GDに関する医療は中断されていた。そのため、GDについて評価し、診断が確定できる医師や治療が行える医療施設は極めて少ない。

Minnesota Multiphasic Personality Inventory（MMPI）は多くの臨床尺度を持ち、多面的にパーソナリティを捉えることが可能である。近年、諸外国においてfemale-to-male（FtM）に対するcross-sex hormone treatment（CSHT）の効果を評価した幾つかの報告がある。その結果、議論の余地は残されているもののCSHTの効果は肯定的に評価されている。しかし、同じFtMを対象とし、CSHT前後の変化についてMMPIを用いて比較した研究はない。

本研究では、血中ホルモン値とMMPIの検査結果から、FtMに対するCSHTと精神療法の効果について検討する。

【対象・方法】

我々は、1999年からGDの治療に携わるようになった。先の「性同一性障害に関する診断と治療のガイドライン」に従い、精神科医師、泌尿器科医師、婦人科医師、形成外科医師、精神保健福祉士、臨床心理士、事務職員とともに医療チームを形成し包括的治療に取り組んできた。

今回対象としたのは、我々の専門外来を受診し診断が確定したFtM155名。この対象者を、初診時にCSHTを受けていた群（CSHT群；n=53）とCSHTを受けていなかった群（no-CSHT群；n=102）に分類し横断研究の対象とした。対象者すべてに、初診時にMMPIと血中ホルモン値の検査を実施した。

さらにno-CSHT群に一定期間CSHTと精神療法によるcombined treatment（CT）を行い、再度MMPIを実施することができた群（CT群；n=14）を縦断研究の対象とした。

CSHTをどの程度受けているかを確認することを目的として、初診時に施行した血中ホルモン値について、CSHT群をno-CSHT群と比較した。CSHTの効果を評価することを目的として、MMPIの各臨床尺度についてCSHT群をno-CSHT群と比較した。精神療法を行いながらCSHTを開始すれば、どのような効果があるかを評価することを目的として、CT群を対象にCSHTを一定期間おこなった後に再度MMPIを施行し初診時に施行した結果と比較した。

【結果】

ホルモン値については、CSHT 群で Testosterone 値は有意に高くなり、Estradiol 値は有意に低下していた。CSHT 群と no-CSHT 群の比較では、MMPI の全ての臨床尺度に有意差は認められなかった。CT 群において、ホルモン療法開始後は Mf 尺度以外の全ての臨床尺度に改善を認めた。

【考察】

今回の我々の研究では、CSHT 群と no-CSHT 群の比較で MMPI の各臨床尺度に有意差は認められなかった。MMPI を用いた先行研究においても有意差が認められていない報告がある。臨床尺度が正常範囲内の場合、CSHT の影響が MMPI の臨床尺度に反映されにくいことが指摘されている。また、今回対象とした CSHT 群は、CSHT の早期開始を強く望む状態であった。受診するまで長期間順番を待つことができた no-CSHT 群と同等にまで CSHT によって精神状態が改善した結果、CSHT 群と no-CSHT 群で有意差が認められなくなった可能性が考えられた。

CT 群は、CSHT 前後の比較で Mf 尺度以外のすべての臨床尺度は改善していた。精神療法と並行して CSHT を受けたことで精神状態は有意に改善していた。

FtM を対象とし、CSHT と精神療法の効果について MMPI を用いて横断研究と縦断研究による検討を行った。横断研究として、CSHT の有無による比較を行ったが、MMPI の臨床尺度に有意差は見られなかった。縦断研究では、CSHT と精神療法の併用により MMPI の臨床尺度は有意な改善が得られた。CSHT は精神状態を改善し、精神療法を並行して行った CSHT はさらなる改善が得られるものと考えられた。